

ギュンター・グラス 『言われねばならぬこと』

ホロコーストと核兵器

ノーベル文学賞受賞作家 ギュンター・グラスの
一編の「詩」が巻き起こした大論争

核兵器開発が噂されるイランとイスラエルが緊張関係に
あった2012年4月4日に発表された詩が何を語り、なぜ、
そして、どのような大論争になったのか

詩で語られているのは
原爆・イランの核施設
核武装国イスラエル
反ユダヤ主義・西側の偽善
脆い世界平和

詩「言われね
ばならぬこと」
日本新訳掲載

1999年にノーベル文学賞を受賞、戦後ドイツを代表する作家ギュンター・グラス。『ブリキの太鼓』などの作品で世界中に読者がいるこの作家が、『言われねばならぬこと』と題した詩は、新聞紙上に発表された当日から大論争を巻き起こし、やがて作家への大バッシングとなっていく。詩では何が語られ、なぜ大論争となったのか。

ドイツとイスラエルの関係、そしてギュンター・グラスを知る1冊

杵淵博樹 著

東京女子大学現代教養学部教授。専門はドイツ現代文学。主な著書に『人類は原子力で滅亡した—ギュンター・グラスと「女ねずみ」』（早稲田大学出版部）、訳書にクレメンス・マイヤー著『夜と灯りと』（新潮社クレスト・ブックス）などがある。

ISBN 978-4-911290-08-8 C0098
四六判(188×128)・並製・160頁
本体予価 2000円(税別)

戦後ドイツの偉大な作家 ギュンター・グラスの初期の代表作

犬の年

二人の主人公とヒトラーの愛犬になる犬を軸に語られる、戦前から戦後のみじめな日々

中野孝次訳 各496頁・四六型(東幅24mm)・並製
1969年集英社発行を底本に復刊。2025年9月刊行
芥川賞受賞作家・石沢麻依の書き下ろし解説を追録

猫と鼠

戦争の暗い影に侵されていく港町で暮らす少年たちのちょっといびつな青春小説

高本研一訳 248頁・B6変型(174×120×16mm)・並製
1977年集英社発行を底本に復刊。2025年5月刊行
書き下ろしの解説(杵淵博樹・東京女子大学)を追録

ギュンター・グラス『言われねばならぬこと』

ISBN978-4-911290-08-8 本体予価 2000円 + 税

注文数

ギュンター・グラス
の初期を代表する小説

犬の年 既刊

上巻 ISBN978-4-911290-06-4 本体 3400円 + 税

下巻 ISBN978-4-911290-07-1 本体 3400円 + 税

猫と鼠 既刊



ISBN978-4-911290-05-7 本体 2400円 + 税

直取引代行
トランスビュー

小社の商品は、直接取引、取次経由ともトランスビューの取扱いで納品します

直接取引 トランスビューの商品と全て同じ条件
迅速納品・低正味!返品随時可

※取次経由の場合 八木書店経由ですべての取次に対応(買切・返品不可)

貴
店
名

ご担当者様



FAX 0120-999-968

BOOKCELLARを使っています
無料Webシステムで簡単発注!
https://www.bookcellar.jp/

EINSCHRITT
VERLAG

合同会社

あいんしゅりっと

ドイツ語圏文学の出版社
2024年3月設立

Tel 04-7183-8159 (竹内) einschritt@einschritt.com